

十勝障がい者就業・生活支援センターだいちの研修の振り返りと 令和2年度下半期の研修体制について

日頃より、当センターの活動にご協力いただき、ありがとうございます。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による活動の自粛要請に伴い、皆さんからのご意見を集約し研修の方法を見直して取り組んでおります。遠方の方を中心に、DVD研修やリモートでの参加希望があり、10月8日の帯広市地域自立支援協議会 令和2年度第1回就労・社会活動部会 及び 令和2年度第1回地域就労支援連絡会議では、プロの方の力をお借りし、初のハイブリッド研修を行いました。今回は、リモートでご参加された皆さんへのアンケート結果と、下半期の研修内容及び体制についてお伝えいたします。

<ハイブリッド研修アンケート結果>

リモート参加の方 21 機関（34 名）中、15 機関からの回答をいただきました。初めてリモートを利用された方は 3 機関にとどまり、多くの方にリモート経験があったことから、大きなトラブルもなく研修を終えることができました。以下、いただいたご意見を抜粋してお伝えします。

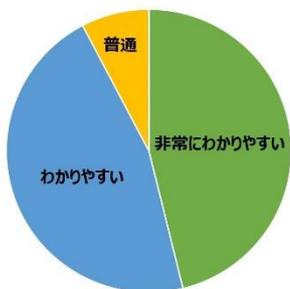
<良かった点>

- ・リハーサルがあったことで、当日スムーズに参加することが出来た
- ・移動時間がなく、時間の有効活用などの面から効率良く参加出来た
- ・途中、時間の空いた職員も参加が出来て、所内での情報共有がよりスムーズに行えた
- ・画面越しではあったが、会場にいるのと変わらない熱量が伝わり、集中して話が聞けた
- ・発表者の表情やスライドのスムーズな動きなど、最前列で研修を受けているようだった

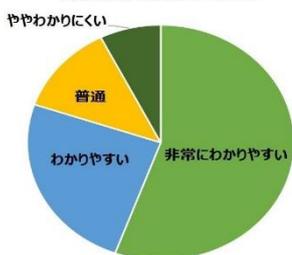
<悪かった点>

- ・画面や音のフリーズがあり、一時的でも通信状態が悪くなると、話の流れについていけない
- ・発表者から直接話が聞けない
- ・会場全体の様子を見ることが出来ればよかった
- ・時間が長く感じた
- ・当日の資料がたくさんあって印刷が大変だった

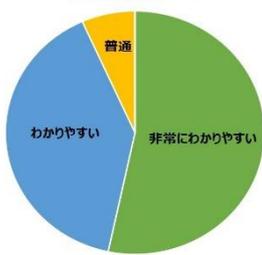
リモートリハーサルについて



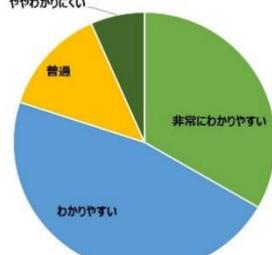
接続方法について



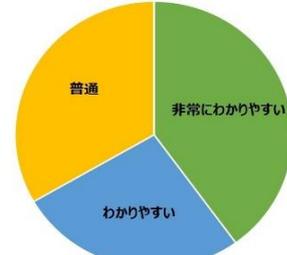
映像の見え方



音の聞こえ方



休憩時間について



研修後のアンケートや訪問での聞き取りを行った結果、研修への期待と学びの場を求めたくても複数のスタッフが参加することができない事情をお知らせいただきました。今回の研修に至るまで、自前でのリモート研修を数回試みていましたが、難しさを実感していたところでした。そのため、今回はプロの力をお借りし、講義形式とパネルディスカッションを配信することができました。

下半期の研修は、リモートを含め講義形式で多くの皆さんに情報を発信する方法と、グループワークや体験型など会場にお集まりいただき、雰囲気共有できるような内容に分けて企画を検討しております。特に遠方からのリモート参加に対する期待感は大きく、どこにお住まいでも相談支援が受けられる地域作りを目指す事も同様に、どこに事業所があっても学びを深めていける体制を考えることは、今後の就労支援の充実につながると強く感じています。

活動の自粛があったからこそ踏み切れた現在の研修体制を大切に、従来の方法に縛られない研修の在り方を模索していきたいと思っています。今後は自前での研修開催に移行いたしますので、不具合や行き届かない点なども起こってくるかと思っております。皆さんの意見をいただきながら研修を作り上げていきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいたします。

<今後の主な研修予定>

- ・移行支援事業所連絡会・・・2か月に1度開催（サビ管・支援員をグループにし別日程・別内容で行います）
- ・企業見学会・体験会・・・就労系福祉サービス事業所との連携の下、小規模で随時開催
- ・帯広市就労・社会活動部会及び連絡会議・・・2月頃を予定
- ・定着支援研修会（企業でお勤めの障がい当事者対象）・・・研修会と少人数でのグループワークを随時開催中
- ・行政機関福祉担当者研修・・・前回の研修後の聞き取りを進め、年度内に研修を検討中

いずれも、地域の感染状況を鑑み、リモートでの参加・リモートでの配信などの方法を随時検討して参ります。

研修の予定はホームページでも随時お知らせをしております。また、結果報告も併せて、ぜひご覧ください。